

令和2年2月28日

貝塚市議会議長 殿

研修会報告書

報告者 平岩征樹

参加者 平岩征樹

若年層を取り巻く雇用環境と結婚支援政策の問題点と課題

開催日：令和2年2月7日（金）10：00～12：00

会場：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター

講師：足立泰美氏（甲南大学経済学部教授）

・労働者の賃金

1995年と近年の賃金を比較すると、年収400万円未満の層の厚みが増しており、全体的に賃金のボリュームゾーンが左にシフトしている。また、購買力を加味した生産性・賃金は、世界の主要国と比べて日本では、生産性よりも賃金の伸びが低い。これは概して、コンビニ・タクシー・宅急便等で品質に比して価格が安いサービスが必要以上に提供されていると考えられる。

・育児の機会費用

子育てのために就業を継続した場合と育児休業を取得して働き続けた場合、逸失率は6.9%なのに対し、出産退職後子どもが6歳時に再就職した場合は逸失率35.9%、出産退職後子どもが6歳時にパートアルバイトとして再就職した場合は逸失率82.2%に上る。共働きが増えているが、多くの場合はまだ出産後退職してパートアルバイトで再就職という形が多い。

・婚姻を取り巻く環境

男性・女性に共通して、独身者の大半が結婚を希望。結婚できない理由と結婚していない理由があるが、結婚できない理由には「生活資金が足りない」「結婚資金が足りない」を理由にあげている。

・若年者の雇用環境

非正規雇用労働者の多くが2人に1人は200万円未満。年々非正規雇用者が増加している中、雇用形態別の配偶者率をみると、30歳以上では正規と非正規

を比べると2倍以上の差が見られる。また学歴別推移を見ると大卒者が増えており、一昔前は雇用政策の多くは中卒者・高卒者が対象であったが、その幅が広がっている。

- ・雇用のミスマッチング

新卒採用のその後をみた場合、多くが3年未満で転職を経験し、その率は事業所の規模が大きくなればなる程低くなる。他の世代に比べて就職氷河期世代に非正規雇用労働者が多いのは、最初に雇用のミスマッチングでつまずき、その後もそれを引きずっていることが起因していると考えられる。

- ・若年層の雇用政策

少子化の原因とも言える婚姻の問題は、経済的問題に起因するところも大きく、その原因は一定の若年層の非正規問題にある。従来の雇用政策の多くは中卒高卒者が対象であったが、就職氷河期世代に特化した支援を国も本腰を入れて始めている。個人の問題と一言で片付けるのは簡単だが、そこから起因する課題も多く、本人らの希望と需要がもっと上手くマッチングできれば多少は解決できるだろう。地方自治体においても政策として何ができるのか考えていく余地はあると思った。